

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290900034		
法人名	有限会社 嶋野商事		
事業所名	グループホームつがる		
所在地	つがる市木造吹原西前田21-18		
自己評価作成日	平成25年12月10日	評価結果市町村受理日	平成26年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成26年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々、自宅に居るのと同じような安心感のある、また、その人らしい生活ができるよう、全職員が協力し、温かい心で支援していきます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域住民として、「地域における介護の相談窓口になれば…」との思いで、今年度開設されたホームであり、地域との交流が図れるように、積極的な働きがけを行っている。 また、利用者との関わりを大切に考えて支援に取り組んでおり、本人は勿論、家族や知人、在宅時のサービス等からも情報収集して、利用者一人ひとりの表情や反応に注意しながら、日々のサービス提供に努めている。
--

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとはどういうことか、職員は理解していると思います。地域のつながりを大事にして、夏祭りにも参加し、交流を図っています。	地域の相談窓口を作りたいとの思いでホームを開設し、地域密着型サービスの役割を理解して、日々のサービス提供に取り組んでいる。ホームの倫理を作成し、職員更衣室に掲示する等して周知を図っている。	職員で話し合い、ホームの倫理を基に、地域密着型サービスの役割を反映させた、独自の理念を作成することに期待したい。また、理念を唱和したり、理念を反映させたサービス提供ができているか話し合う機会を設ける等、理念を共有化するための取り組みにも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の美容院でカットやパーマをかけてもらっています。運営推進会議の時に、地域で催しがあったら参加するということと、避難訓練の時は御協力をお願いしています。	開設間もないが、地域の自治会に加入したり、運営推進会議で協力を働きかけながら、地域行事の情報をいただき、地域の宵宮に参加する等して、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生の職場見学があり、認知症の方の特徴や支援の方法を説明して、その後、交流を図っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には地域を代表したメンバーの方々が参加されています。その日に出された意見は、次の会議の時に報告し、取り組むようにしています。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、市役所職員や自治会会長、老人クラブ会長、民生委員等、地域の方が多数、メンバーとして参加している。会議では、メンバーからの情報提供や、貴重な意見・助言が得られている他、地域行事等を通じて交流できるよう、働きかけている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には市役所介護課から参加いただいております。その時に出された意見やアドバイスを参考にして、協力関係が築けるよう取り組んでいます。	わからない事や疑問に思った事を電話にて確認し、指示や助言をいただいたり、市役所に直接出向いて、アドバイスを得ている。また、運営推進会議に市役所職員が参加している他、ホームのパンフレットも配布している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不穏状態で外に出るのが危険と判断した時は玄関を施錠していますが、夜間の戸締りの時間帯なので、利用者が出て行くということはありません。外に行きたい(受診を含む)と話した時は、その日に対応するようにしています。	管理者及び職員は研修や勉強会を通じて、身体拘束の内容や弊害について理解しており、身体拘束を行わないケアを心がけている。日中、玄関を施錠せず、自由に出入りができる他、職員間で連携して、利用者の外出傾向を察知できるように努めている。	今後、やむを得ず身体拘束を行う場合も想定し、同意書等、必要な各記録様式を含む身体拘束のマニュアル整備や、体制づくりにも期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は絶対に起こらないよう、日頃から注意してケアの観察をしています。職員も勉強会で理解し、利用者本位のケアを実践しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強不足、理解不足であり、今後、権利擁護制度について勉強する機会を持ちたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はホームの説明をして、疑問点がないか尋ねています。その時は退所となった時の説明もして、理解いただいた上で契約しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には毎月、手紙で利用者の近況を報告しています。利用者についても、ホールで他の利用者と会話しながら、不満等を話しているので、その時にはすぐ対応し、職員で話し合い、改善しています。	電話や面会時、お便り等で、家族に利用者の暮らしぶりや状況報告を行っており、その際に、意見や希望がないか、さりげなく確認をしている。また、重要事項説明書にホーム内外の相談苦情窓口を明示し、ホーム内にも提示している他、出された意見等に速やかに対応し、より良い運営のために活かせる体制を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	働きやすい職場でありたいので、意見や提案は随時聞くようにしています。利用者と馴染みの関係を築いている職員には、その関係を大事にして、ケアに取り組んでもらっています。	申し送りや気づいた時等、職員が管理者と話をする体制を整えており、職員の希望は真摯に受け止め、改善できることは改善し、今後のために反映させるように努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者から適時報告を受け、職員の思いや状況を把握するようにしています。また、職員同士が交流を深め、協力し、楽しく働く環境を作れるよう心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修を行う等、一人ひとりが向上心を持って取り組める環境を作れるよう、心がけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの管理者等と面会しており、今後、更に同業者と交流する機会を作り、勉強会等を通して、サービスの質を向上させていきたいと思っています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談があった時は本人と面談し、身体状況の確認をします。本人から不安な気持ちや要望を聞き出すようにして、安心感を与えられるように対応しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談があった時は家族の気持ちにも同調し、信頼関係が築けるよう、意識して対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズに対し、対応できる事は実行して、すぐに対応できない事はホームでの暮らしを見ながら、対策を考えます。今まで特に困難な事柄はなかったように思います。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症の感情失禁にも戸惑うことなく、冷静に対応しています。日常生活面では軽作業を共に行い、存在を感じてもらえるよう支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換は、些細な事でも報告して、家族からアドバイスをもらい、助けてもらっています。共に利用者を支えていく関係は築けていると思います。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人が面会に来られ、利用者は懐かしそうに会話されています。その後も定期的に来られて、それが利用者の楽しみとなっているようです。自宅に居た頃の関係は維持できるよう、支援していきたいと思っています。	本人や家族の他、在宅時に利用していたサービスからも情報を得る等して、利用者の馴染みの人や場所を把握している。電話がかかってきた時はゆっくりと話ができるよう、居室に子機を持って行ったり、知人等の面会を歓迎し、これからも交流が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握していて、責めるのではなく、環境を変えて対応するようにしています。そういう状況の中で、もめ事を止める利用者も居て、仲間意識が出てきていると思います。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所される時に「何時でも相談ください」とお話しています。入院先の病院にはホームでの生活の様子を伝え、状況に合った支援の継続をお願いしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本位の暮らしができるように支援しています。困難な時は利用者の気持ちを十分に聞いて、対応策を考えています。家族にも報告し、家族からの意見も参考にしながら、本人の思いに沿った生活ができるよう支援しています。	利用者に関わる時間を多くし、日常生活の中で、利用者の表情や会話から思いや希望を汲み取り、職員間で情報を共有しながら、利用者の視点に立ったケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談で家族と本人から聞きとりし、関係者等からも情報収集を行って、生活歴を把握するようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は日頃の介護から、利用者一人ひとりの生活リズムや、できる事、できない事を把握できていると思います。その人を知ろうという気持ちで支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の普段の様子と会話、家族が面会にいらした時に聞き取りをして、職員と話し合い、計画を作成しています。	介護計画作成時には利用者や家族等の思いや意向、また、職員の気づき等を反映させるように努めている。定期的な見直しの他、状態や希望等の変化時には、随時、見直しを行い、利用者がその人らしく暮らし続けることができるように取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は誰が見てもわかるように、細かく書くようにしています。計画に沿って、実践できたかを記入できていない時もありますが、職員間で情報を共有し、計画の見直し等に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自主サービスで、現状の暮らしを支援しています。サービスに変化を持たせるように、関係機関のサービスも参考にして、取り入れたいと思います。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で、地域と関係機関に、情報の提供と協力をお願いしています。私達も地域のサービスにどのようなものがあるのかを調べて、外部の方ともお付き合いできればと思っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人と家族の意向で病院が決まっています。医師とも連携が図れており、受診結果は家族に報告し、職員とも情報の共有ができています。	これまでの受療歴を把握しており、利用者や家族が希望するかかりつけ医や専門医等への受診を支援している。受診結果については毎月のお知らせの他、緊急時にはその都度、家族に電話で連絡し、共有化を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が居ません。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供と、家族も交えた治療方針等の話し合いの場に参加しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に本人と家族へ、重度化した場合のホームでの暮らしの継続は、状況に応じて困難かもしれないことを伝えていきます。その時は次の受け入れ先の確保と、入所できるまで支援を継続することをお話しています。	入所時に、重度化や終末期において、ホームとして対応できないことを伝え、方針を明確にしておき、次の入所先(受け入れ先)を探す等の支援に努める体制である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日常の介護場面で、事故の時のケアの仕方を伝えていますが、研修会等には参加していないので、参加して、マニュアルも作成したいと思います。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年は年2回、火災を想定した避難訓練を行いました。災害発生時に備えて、食料や物品の用意もしていきたいと思います。	日中を想定した避難訓練を実施しており、今後、夜間想定避難訓練も行う予定である。また、災害時の備えた物品を敷地内のデイスサービスに準備している。	災害発生時に地域住民から協力が得られるよう、働きかけを行うことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の方でも自尊心を傷つけないように、訴えに耳を傾けて、同調してくださいと指導しています。言葉遣いには十分に注意して、プライバシーに配慮した対応をしています。	利用者の言動を否定・拒否しないように努めており、言葉遣い等についても、職員間でお互いに注意し合っている。排泄時には細心の注意を払って、声がけやケアを行っており、失禁時には周囲に気づかれないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者には「～しても良いですか」等、問いかけて、自己決定できるようにしています。悩んでいる時は表情等を見て助言し、利用者の気持ちを尊重した支援をしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく利用者の希望に沿うようにしています。どうしても難しい時は理由を話して、納得されるまで本人の気持ちを聞き、不快に思われないような対応を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時の服装や化粧等をされる方には、一緒に見立てています。普段でも、同じ服ばかり着ないように、一緒に選んでいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルを拭いてもらったり、おしぼりの準備等してもらっています。同じ人ばかりではなく、役割を交代して、飽きずにできるように工夫しています。	利用者の摂取状況や嗜好を考慮し、職員が一週間交代で献立を作成している。職員は利用者と一緒に席に着き、会話をしながら、一緒に食事を摂っており、楽しい食事時間となるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のチェックをしながら、その人に合った量、摂取の仕方、一日の平均がとれるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に自分でうがい、義歯洗浄をしてもいい、その後、磨き残しがないか確認しています。うがいの時はむせたりしないように、必ず側で見守りをしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	失禁を減らすために、その人の排泄パターンに合わせ、声がけをしています。失禁時にも他の利用者に気づかれないように、速やかに対応しています。	排泄チェック表に記録し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、排泄の自立に向けた支援を行っている。トイレ誘導時や排泄介助時は、利用者のプライバシーや羞恥心に配慮して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の時は水分摂取と運動で自然排便を試みっていますが、なかなか出ない人には、下剤を服用してもらっています。服用時期もその人の排泄パターンに合わせているので、個々に違います。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴を拒否した時は、その原因を探り、再度、声がけをしています。入りたくない時は入りたくなるような声がけをして、週2回、入浴できるように支援しています。また、入浴前のバイタルチェックと身体状況で、入浴時間も個別に対応しています。	熱い湯や温い湯等、利用者の好みや入浴習慣を把握しており、利用者の希望や体調に応じて入浴できるよう支援している。また、入浴は個別に対応し、羞恥心や負担感を十分に考慮して、ゆっくり入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の気持ちを尊重しつつも、閉じこもりにならないように、声がけをしています。外出後は疲れから横になられる方が多いです。夜間不眠の方は眠くなるまでホールでテレビを見たり、話をする等、本人のパターンに合わせて支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は変更があった時は、口頭とノートでの申し送りをして、1週間は観察するようにし、家族にも報告しています。薬服用時は職員が誰に飲ませるかを声に出し、飲み忘れや間違いがないように注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品に関しては特に希望はなく、食べ物の方が希望があり、家族が持参されています。今後は、昔、得意であったことを取り入れて、生き生きと過ごせるように支援したいと思います。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の計画は利用者の希望を取り入れて、無理のないよう計画しています。急な外出の要求はないですが、必要に応じて家族と協力しながら、対応したいと思います。	日常生活の中で、利用者の行きたい場所を把握し、外出行事に盛り込んでいる。また、天気の良い日は敷地内の庭園を散歩する等して、利用者の気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていないと不安になる方は、家族の希望もあり、少額は持っていますが、本人がそのお金で何かを買うということはありません。殆んどの方は、ホームで預かっています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族から葉書が送られてきます。電話や手紙よりも面会に来られる方が多いです。「耳が遠い」、「書けない」、「見えない」との訴えがありますが、職員の介助で、遠くに住む家族の声が聞こえるように支援したいと思います。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室のネームプレートに、利用者が書いた、その季節の絵を飾っている。静か過ぎず、また、騒々しくならないように、生活音を響かせるようにしています。	利用者が集まってテレビを鑑賞したり、思い思いに寛げるように、ホール内に大きな椅子やソファがある。また、季節を感じられるような飾り付けも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテレビを見れる場所とテーブル席があります。ソファでは仲間同士の会話がはずみ、テーブル席では利用者と家族が団欒して過ごされています。日中は、殆んどの方が声をかけなくてもホールに集まってくる、居心地の良い場所となっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた食器等を持ってきて、使用しています。居室づくり、家具の配置は本人の歩行レベルに合わせ、利用者と家族で決めました。馴染みの物を持ってきてもらうよう、再度、働きかけたいと思います。	椅子やテレビ、写真等、馴染みのある家具や愛用していた生活用品等が持ち込まれており、各利用者が安心して過ごせる居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自宅に居た時にしていた事や好きな事等、利用者や家族に聞いて、実行できるよう工夫しています。		